

はじめに

『簿記バイブル』は、おかげさまで多くの公認会計士試験、簿記検定試験等の受験生の皆様にご支持をいただいている。まずこの点につき、深く感謝申し上げる次第である。

さて、近年、多くの会計基準の制定改廃が行われている。本書では、伝統的な論点から最新の会計基準まで網羅的に紹介している。なお、連結会計や企業結合会計などは、『連結バイブル』で取り扱っている。

本書は、資格の大原 公認会計士講座で使用している財務会計論（計算）テキストをベースとしている。簿記検定3級レベルの学習経験のある方が、公認会計士試験の短期合格のために過不足のない知識を習得していただくことを目的として作成した。日々の学習の傍に本書を置いていただき、財務会計論、簿記の知識習得に役立てていただきたい。なお、本書は、2021年2月時点で適用されている会計基準等に基づき作成している。

公認会計士試験の財務会計論における計算問題（簿記）の近年の出題傾向は、既存論点にかかる知識の習得はもちろん、最新論点にかかる基本的な知識の習得が要求されている。本書を通じて幅広い知識を習得していただければ幸いである。

また、本書は、公認会計士試験対策用の教材として執筆しているが、近年の国家試験、検定試験における財務会計論の計算問題（簿記）は、試験の種類により出題内容が大きく変わるものではなく、税理士試験、簿記検定試験などの受験生にとっても役立つものと確信している。

本書が、すべての読者の皆さまにとって少しでも役に立つことができるならば、これ以上の喜びはない。

令和3年（2021年）5月

資格の大原 公認会計士講座

目 次

第 1 章 財務諸表

第 1 節	簿記一巡の手続	2
第 2 節	財務諸表（貸借対照表，損益計算書）	5

第 2 章 商品売買

第 1 節	総論	14
第 2 節	商品売買の記帳方法	16
第 3 節	商品有高帳の記帳	37
第 4 節	返品	44
第 5 節	未着品	46
第 6 節	原価率等	48
第 7 節	仕入諸掛り・販売諸掛りの処理	51
第 8 節	他勘定振替高	59

第 3 章 棚卸資産の期末評価

第 1 節	総論	64
第 2 節	棚卸減耗損	66
第 3 節	商品評価損	74
第 4 節	売価還元法	84
第 5 節	トレーディング目的で保有する棚卸資産	98

第 4 章 現金及び預金

第 1 節	現金	102
第 2 節	当座預金	107
第 3 節	小口現金	123
第 4 節	その他の預金	127

第5章 債権・債務等

第1節	売掛金・買掛金	130
第2節	その他の債権・債務	133
第3節	経過勘定	138
第4節	手形総論	143
第5節	約束手形	144
第6節	為替手形	146
第7節	手形の裏書譲渡と割引	152
第8節	不渡手形	158
第9節	手形の更改	162
第10節	営業外手形	164
第11節	金融手形（手形借入金・手形貸付金）	166
第12節	荷為替手形	168

第6章 貸倒れと貸倒引当金

第1節	貸倒損失	172
第2節	貸倒引当金の設定	173
第3節	貸倒れの処理と貸倒引当金の取崩し	177
第4節	貸倒れ処理済債権の回収	179
第5節	手形の裏書譲渡・割引と貸倒引当金戻入	181
第6節	相殺適状	182
第7節	貸倒見積高の算定	184

第7章 有価証券

第1節	総論	196
第2節	株式に係る期中処理	198
第3節	公社債に係る期中処理	203
第4節	有価証券の分類と評価	209
第5節	親会社株式	245
第6節	約定日基準と修正受渡日基準	246

第8章 デリバティブ取引・ヘッジ会計等

第1節	デリバティブ取引	252
第2節	ヘッジ会計	271
第3節	金融商品に関するその他の論点	291

第9章 有形固定資産

第1節	総論	304
第2節	取得原価の決定	306
第3節	減価償却	311
第4節	除却・売却	325
第5節	圧縮記帳（直接減額方式）	329
第6節	特別目的会社を活用した不動産の流動化	333

第10章 リース取引

第1節	総論	338
第2節	オペレーティング・リース取引	341
第3節	ファイナンス・リース取引（借手の会計処理）	342
第4節	ファイナンス・リース取引（貸手の会計処理）	386
第5節	その他のリース取引	403

第11章 無形固定資産

第1節	総論	416
第2節	のれん	419

第12章 研究開発費とソフトウェア

第1節	研究開発費	422
第2節	ソフトウェア	423

第13章 投資その他の資産

第1節 概要及び会計処理	432
--------------	-----

第14章 固定資産の減損

第1節 総論	436
第2節 その他の論点	449
第3節 共用資産とのれん	465

第15章 繰延資産

第1節 総論	484
第2節 各論	485

第16章 社債

第1節 総論	494
第2節 買入償還	506
第3節 定時分割償還	512

第17章 引当金

第1節 総論	524
第2節 各論	525

第18章 退職給付

第1節 総論	530
第2節 退職一時金制度	531
第3節 確定給付企業年金制度	546
第4節 過去勤務費用及び数理計算上の差異	553
第5節 その他の論点	567

第19章 資産除去債務

第1節	総論	582
第2節	見積りの変更	588
第3節	その他の論点	599

第20章 純資産

第1節	総論	614
第2節	株式の発行	617
第3節	剰余金の配当	619
第4節	計数の変動	628
第5節	剰余金の処分	632
第6節	自己株式	635
第7節	分配可能額の算定	646
第8節	株主資本等変動計算書	658

第21章 新株予約権と新株予約権付社債

第1節	新株予約権	670
第2節	新株予約権付社債	685

第22章 ストック・オプション

第1節	総論	696
第2節	権利不確定による失効	700
第3節	対象勤務期間	707
第4節	条件変更	728

第23章 税金

第1節	法人税等	744
第2節	消費税	751
第3節	その他の税金	753

一 簿記バイブル下巻一

- 第24章 税効果会計
- 第25章 外貨建取引
- 第26章 キャッシュ・フロー計算書
- 第27章 四半期財務諸表
- 第28章 会計上の変更及び誤謬の訂正
- 第29章 1株当たり情報
- 第30章 収益認識
- 第31章 帳簿組織
- 第32章 本支店会計
- 第33章 在外支店
- 第34章 製造業（商的工業簿記）
- 第35章 本社工場会計

第1章

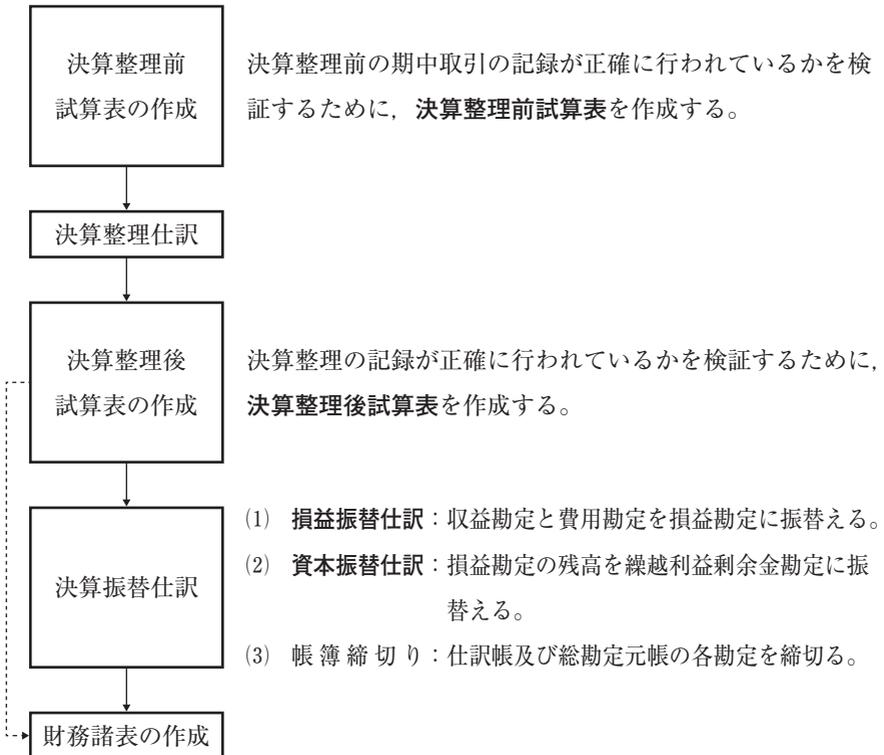
財務諸表

第1節 簿記一巡の手続

第2節 財務諸表（貸借対照表，損益計算書）

3. 決算手続

決算手続は以下の順序で行われる。



決算振替仕訳

(1) 損益振替仕訳

(諸	収	益)	×××	(損	益)	×××
(損	益)	×××	(諸	費	用)	×××

※ 損益振替仕訳を行った後の損益勘定の残高は当期純利益と一致する。

第1章 財務諸表

(2) 資本振替仕訳

(損	益)	×××	(繰越利益剰余金)	×××
----	----	-----	-----------	-----

※ 損益勘定の残高（当期純利益）を繰越利益剰余金勘定に振替える。

一般に、会計期間を指す呼称として2通りの表現がある。X1年4月1日に始まりX2年3月31日に終了する会計期間は、「X1年度」または「X2年3月期」と表現される。

第2節 財務諸表（貸借対照表、損益計算書）

財務諸表とは、一会計期間における企業の営業活動によって生じる資産・負債・純資産・収益・費用の金額的な変化の結果を整理・要約し、企業の財政状態および経営成績を示すために作成・公表される計算書である。

1. 損益計算書

(1) 意義

損益計算書とは、一定期間における企業の収益と費用を記載して当期純利益を計算し、その会計期間における企業の経営成績を明らかにする計算書である。

なお、損益計算書の形式には報告式と勘定式とがある。

(2) 区分

損益計算書においては、各収益・費用の項目を以下のように発生源泉ごとに分類する。

- ① 売上高
- ② 売上原価
- ③ 販売費及び一般管理費

これは、給料・発送費・広告宣伝費・減価償却費など、企業の販売活動及び管理活動に要する費用である。

④ 営業外収益

これは、受取利息・受取配当金など営業活動に付随する経常的な金融・投資による収益である。

⑤ 営業外費用

これは、支払利息など営業活動に付随する経常的な金融・投資による費用である。

⑥ 特別利益・特別損失

これは、企業活動で臨時的に発生した損益であり、固定資産売却損、固定資産売却益などがある。

第1章 財務諸表

上記のように各収益・費用の項目を発生源泉ごとに分類した上で、さらに当期純利益を算定表示するまでの間に、以下のように特定の利益源泉から生じる収益と費用を対応させて、段階的に利益を算定表示する。

- ① 売上高から売上原価を控除して売上総利益を算定する。
- ② 売上総利益から販売費及び一般管理費を控除して主たる営業活動から生じた営業利益を算定する。
- ③ 営業利益に営業外収益と営業外費用を加減して、企業の正常な経常活動から生じた経常利益を算定する。
- ④ 経常利益に特別利益と特別損失を加減して全ての損益を包括した（税引前）当期純利益を算定する。

《報告式損益計算書》

損 益 計 算 書

〇〇株式会社	自×年×月×日	至×年×月×日	(単位：円)
I 売 上 高			× × ×
II 売 上 原 価			
1. 期首商品棚卸高		× × ×	
2. 当期商品仕入高		(+) × × ×	
計		× × ×	
3. 期末商品棚卸高		(-) × × ×	(-) × × ×
売上総利益			× × ×
III 販売費及び一般管理費			
1. 給 料		× × ×	
:		:	(-) × × ×
営業利益			× × ×
IV 営業外収益			
1. 受 取 利 息		× × ×	
:		:	(+) × × ×
V 営業外費用			
1. 支 払 利 息		× × ×	
:		:	(-) × × ×
經常利益			× × ×
VI 特別利益			
1. 備品売却益		× × ×	
:		:	(+) × × ×
VII 特別損失			
1. 備品売却損		× × ×	
:		:	(-) × × ×
税引前当期純利益			× × ×
法 人 税 等			(-) × × ×
当期純利益			× × ×

《勘定式損益計算書》

損 益 計 算 書

〇〇株式会社 自×年×月×日 至×年×月×日 (単位：円)

費 用	金 額	収 益	金 額
期首商品棚卸高	×××	売 上 高	×××
当期商品仕入高	×××	期末商品棚卸高	×××
給 料	×××	受 取 利 息	×××
支 払 利 息	×××	備 品 売 却 益	×××
備 品 売 却 損	×××		
法 人 税 等	×××		
当 期 純 利 益	×××		
	×××		×××

2. 貸借対照表

(1) 意義

貸借対照表とは一定の日における企業の資産・負債・純資産の残高を表示し、その日における企業の財政状態を明らかにする計算書である。貸借対照表も損益計算書と同様に形式には報告式と勘定式とがある。

(2) 区分

資産の部・負債の部・純資産の部に3区分し、資産の部は流動資産・固定資産・繰延資産に、固定資産はさらに有形固定資産・無形固定資産・投資その他の資産に区分表示する。負債の部は流動負債・固定負債に、純資産の部は株主資本と株主資本以外の各項目に区分する。

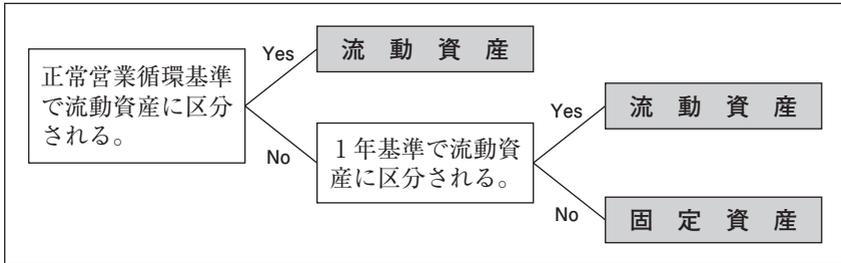
資産・負債の流動・固定の分類基準については、正常営業循環基準を基本として、これに1年基準を加味する。

① 正常営業循環基準

営業債権・債務、棚卸資産は流動区分とする。

② 1年基準

上記①で対象とならなかった主目的たる営業取引以外の取引により発生した債権・債務、それに預金、前払費用については、貸借対照表日の翌日から起算して1年以内に期限が到来するか否かの基準により、流動区分ないし固定区分とされる。



また配列法として、資産について現金化の速度のはやいものから、負債については支払までの期間の短いものから順に示している（流動性配列法という）。なお、貸倒引当金や減価償却累計額は、原則として、主たる勘定である売掛金・受取手形や固定資産から控除する形式で示す。

《報告式貸借対照表》

貸借対照表

〇〇株式会社

×年×月×日

(単位：円)

資 産 の 部		
I 流動資産		×××
II 固定資産		
1.有形固定資産	×××	
2.無形固定資産	×××	
3.投資その他の資産	×××	×××
III 繰延資産		×××
資産合計		×××
負 債 の 部		
I 流動負債		×××
II 固定負債		×××
負債合計		×××
純 資 産 の 部		
I 株主資本		
1.資本金		×××
2.資本剰余金		
(1)資本準備金	×××	
(2)その他資本剰余金	×××	×××
3.利益剰余金		
(1)利益準備金	×××	
(2)その他利益剰余金		
××積立金	×××	
繰越利益剰余金	×××	×××
4.自己株式		△×××

II 評価・換算差額等	
1. その他有価証券評価差額金	×××
2. 繰延ヘッジ損益	×××
III 新株予約権	×××
純資産合計	<u>×××</u>
負債・純資産合計	<u><u>×××</u></u>

《勘定式貸借対照表》

貸借対照表

〇〇株式会社

×年×月×日

(単位：円)

<p>資産の部</p>	<p>負債の部</p>
<p>I 流動資産 ×××</p>	<p>I 流動負債 ×××</p>
<p>II 固定資産 ×××</p>	<p>II 固定負債 ×××</p>
<p>III 繰延資産 ×××</p>	<p> 負債合計 <u>×××</u></p>
<p style="text-align: center;">/</p>	<p style="text-align: center;">純資産の部</p>
<p style="text-align: center;">/</p>	<p>I 株主資本 ×××</p>
<p style="text-align: center;">/</p>	<p>II 評価・換算差額等 ×××</p>
<p style="text-align: center;">/</p>	<p>III 新株予約権 ×××</p>
<p style="text-align: center;">/</p>	<p> 純資産合計 <u>×××</u></p>
<p>資産合計 <u>×××</u></p>	<p>負債・純資産合計 <u><u>×××</u></u></p>

第2章

商品売買

第1節 総論

第2節 商品売買の記帳方法

第3節 商品有高帳の記帳

第4節 返品

第5節 未着品

第6節 原価率等

第7節 仕入諸掛り・販売諸掛りの処理

第8節 他勘定振替高

第1節 総論

1. 売上原価

売上原価とは、販売した商品の原価である。また、売上高と売上原価の差額を売上総利益という。

$$\text{売上高} - \text{売上原価} = \text{売上総利益}$$

個々の取引ごとの売上原価は商品有高帳において把握される。また、一期間の売上原価は以下の算式により求めることができる。一般的に、損益計算書における売上原価は、内訳として当該算式と同様の計算過程を示す。

$$\text{売上原価} = \text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品棚卸高}$$

2. 商品の増減

一期間の商品売買取引の状況を簡潔にまとめたBOX図は、下書きのツールとして多用される。

商品BOX

期首の在庫	当期販売 (出庫)
当期仕入 (入庫)	
	期末の在庫

BOX図の各項目を原価で記入すると、当期に販売した商品の原価、すなわち当期の売上原価が把握できる。

BOX図の借方合計は当期に販売可能であった商品を意味するが、このうち当期に実際に販売されたもの以外は期末に在庫として残っているはずである。よって、BOX図の借方合計と貸方合計は必ず一致する。ただし、BOX図における期末の在庫は帳簿棚卸高を意味する。

例題 2 - 1 売上原価の算定

以下の資料により、損益計算書及び貸借対照表（一部）を作成しなさい。

1. 期中取引

- ① 商品19,000円を仕入れた。
- ② 商品を24,000円で販売した。

2. その他の事項

期首商品棚卸高は1,000円、期末商品棚卸高は2,000円であった。

解 答 (単位：円)

1. BOX図

商品BOX

期首商品棚卸高	1,000	売上原価	18,000※	(売上高24,000)
当期商品仕入高	19,000			
期末商品棚卸高	2,000			

※ $1,000 + 19,000 - 2,000 = 18,000$

2. 損益計算書・貸借対照表

<u>損益計算書</u>		<u>貸借対照表</u>	
I	売上高	24,000	商 品
II	売上原価		2,000
	1. 期首商品棚卸高	1,000	
	2. 当期商品仕入高	19,000	
	合 計	20,000	
	3. 期末商品棚卸高	2,000	
	売上総利益	18,000	
		6,000	

第2節 商品売買の記帳方法

1. 三分割法（三分法）

(1) 期中取引の仕訳

・商品仕入時の仕訳

(仕	入)	××× 原価	(買掛金等)	×××
----	----	-----------	--------	-----

・商品販売時の仕訳

(売掛金等)	×××	(売	上)	××× 売価
--------	-----	----	----	-----------

(2) 期中取引の勘定記入

繰越商品			
前期繰越	}	前T/B	
仕入			売上
当期仕入高	}	前T/B	
			前T/B
			} 当期売上高

※ 本テキストにおいて、「前T/B」は決算整理前残高試算表の略号として用いている。

同様に、「後T/B」は決算整理後残高試算表の略号とする。

なお、T/Bとは“Trial Balance”（英語で試算表の意）の頭文字である。

(3) 決算整理前残高

期中取引を転記した結果、決算整理前の各勘定の残高は次のような意味を持つ。

繰越商品	期首商品棚卸高
仕入	当期商品仕入高
売上	当期売上高

(4) 決算整理仕訳

(仕 入)	××× 期首棚卸高	(繰越商品)	××× 期首棚卸高
(繰越商品)	××× 期末棚卸高	(仕 入)	××× 期末棚卸高

(5) 決算整理の勘定記入

繰越商品		仕 入	
前期繰越	期首商品棚卸高	当期仕入高	期末商品棚卸高
期末商品棚卸高	後 T/B		後 T/B
		期首商品棚卸高	

(6) 決算整理後残高

決算整理後の各勘定の残高は次のような意味を持つ。

繰越商品	期末商品棚卸高
仕入	当期売上原価
売上	当期売上高

なお、繰越商品勘定の残高は次期に繰り越され、仕入勘定および売上勘定の残高は損益勘定に振り替えられる。

例題 2 - 2 三分割法

以下の資料により、三分割法による期中取引仕訳及び決算整理仕訳を示しなさい。

1. 期中取引

- ① 商品19,000円を仕入れた。
- ② 原価18,000円の商品を24,000円で販売した。

2. その他の事項

期首商品棚卸高は1,000円、期末商品棚卸高は2,000円であった。なお、商品売買取引はすべて掛により行われている。

解 答 (単位：円)

1. BOX図

商品BOX

期首商品棚卸高	1,000		
当期商品仕入高	19,000	売上原価	18,000 (売上高24,000)
		期末商品棚卸高	2,000

2. 期中取引仕訳

- ① (仕 入) 19,000 (買 掛 金) 19,000
- ② (売 掛 金) 24,000 (売 上) 24,000

3. 期中取引の勘定記入

繰越商品	売 上
前期繰越 1,000	前 T/B 24,000 ②売掛金24,000 (売上高)
仕 入	
①買掛金19,000 (当期商品仕入高)	
前 T/B 1,000	
前 T/B 19,000	

4. 決算整理前残高

決算整理前残高試算表

繰越商品	1,000 期首	売上	24,000
仕入	19,000 当期仕入高		

5. 決算整理仕訳

(仕入)	1,000	(繰越商品)	1,000
(繰越商品)	2,000	(仕入)	2,000

6. 決算整理後残高

決算整理後残高試算表

繰越商品	2,000 期末	売上	24,000
仕入	18,000 売上原価		

7. 損益計算書・貸借対照表

損益計算書		貸借対照表	
I 売上高	24,000	商品	2,000
II 売上原価			
1. 期首商品棚卸高	1,000		
2. 当期商品仕入高	19,000		
合計	20,000		
3. 期末商品棚卸高	2,000	売上原価	18,000
売上総利益	6,000		

2. 売上原価対立法

(1) 期中取引の仕訳

・商品仕入時の仕訳

(商	品)	×××	(買掛金等)	×××
		原価		

・商品販売時の仕訳

(売掛金等)	×××	(売	上)	×××
	売価			売価
(売上原価)	×××	(商	品)	×××
	原価			原価

(2) 期中取引の勘定記入

商 品		売上原価	
前期繰越	売上原価	売上原価	} 前 T/B
当期仕入高			
	} 前 T/B	売 上	
		前 T/B	} 当期売上高

(3) 決算整理前残高

期中取引を転記した結果、決算整理前の各勘定の残高は次のような意味を持つ。

商品	期末商品棚卸高
売上	当期売上高
売上原価	当期売上原価

(4) 決算整理仕訳

決算整理前の売上原価勘定により既に当期の売上原価は判明し、また、商品勘定は期末有高を示しているため、決算整理は必要ない。よって、決算整理後の各勘定の残高は決算整理前と同額となる。

なお、商品勘定の残高は次期に繰り越され、売上原価勘定および売上勘定の残高は損益勘定に振り替えられる。

例題 2-3 売上原価対立法

以下の資料により、売上原価対立法による期中取引仕訳及び決算整理仕訳を示しなさい。

1. 期中取引

- ① 商品19,000円を仕入れた。
- ② 原価18,000円の商品を24,000円で販売した。

2. その他の事項

期首商品棚卸高は1,000円、期末商品棚卸高は2,000円であった。なお、商品売買取引はすべて掛により行われている。

解 答 (単位：円)

1. BOX図

商品BOX

期首商品棚卸高	1,000	売上原価	18,000 (売上高24,000)
当期商品仕入高	19,000		
期末商品棚卸高	2,000		

2. 期中取引仕訳

- ① (商 品) 19,000 (買 掛 金) 19,000
- ② (売 掛 金) 24,000 (売 上) 24,000
- (売 上 原 価) 18,000 (商 品) 18,000

3. 期中取引の勘定記入

商 品		売上原価	
前期繰越 1,000 (期首商品棚卸高)	②売上原価 18,000 (売上原価)	②商 品 18,000	前T/B 18,000
①買掛金 19,000 (当期商品仕入高)			
前T/B 2,000 (期末商品棚卸高)		売 上	
		前T/B 24,000	②売掛金 24,000 (売上高)

第2章 商品売買

4. 決算整理前残高

決算整理前残高試算表			
商 品	2,000 期末	売	上 24,000
売 上 原 価	18,000		

5. 決算整理仕訳

仕訳なし

6. 損益計算書・貸借対照表

	<u>損 益 計 算 書</u>		<u>貸 借 対 照 表</u>
I 売 上 高	24,000	商	品 2,000
II 売 上 原 価			
1. 期首商品棚卸高	1,000		
2. 当期商品仕入高	19,000		
合 計	20,000		
3. 期末商品棚卸高	2,000	18,000	
売上総利益	6,000	6,000	

3. 分記法

(1) 期中取引の仕訳

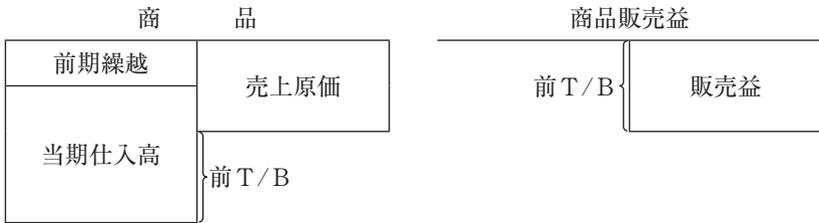
・商品仕入時の仕訳

(商 品)	××× 原価	(買 掛 金 等)	×××
-------	-----------	-----------	-----

・商品販売時の仕訳

(売 掛 金 等)	××× 売価	(商 品)	××× 原価
		(商 品 販 売 益)	××× 利益

(2) 期中取引の勘定記入



(3) 決算整理前残高

期中取引を転記した結果、決算整理前の各勘定の残高は次のような意味を持つ。

商品	期末商品棚卸高
商品販売益	当期売上総利益

(4) 決算整理仕訳

決算整理前の商品販売益勘定により既に当期の売上総利益は判明し、また、商品勘定は期末有高を示しているため、決算整理は必要ない。よって、決算整理後の各勘定の残高は決算整理前と同額となる。

なお、商品勘定の残高は次期に繰り越され、商品販売益勘定の残高は損益勘定に振り替えられる。

例題 2-4 分記法

以下の資料により、分記法による期中取引仕訳及び決算整理仕訳を示なさい。

1. 期中取引

- ① 商品19,000円を仕入れた。
- ② 原価18,000円の商品を24,000円で販売した。

2. その他の事項

期首商品棚卸高は1,000円、期末商品棚卸高は2,000円であった。なお、商品売買取引はすべて掛により行われている。

第2章 商品売買

解 答 (単位：円)

1. BOX図

商品BOX

期首商品棚卸高	1,000	売上原価	18,000	(売上高24,000)
当期商品仕入高	19,000			
		期末商品棚卸高	2,000	

2. 期中取引仕訳

- ① (商 品) 19,000 (買 掛 金) 19,000
- ② (売 掛 金) 24,000 (商 品) 18,000
- (商 品 販 売 益) 6,000

3. 期中取引の勘定記入

商 品		商品販売益	
前期繰越 1,000 (期首商品棚卸高)	②売掛金 18,000 (売上原価)	前 T/B 6,000	②売掛金 6,000 (販売益)
①買掛金 19,000 (当期商品仕入高)			
		前 T/B 2,000 (期末商品棚卸高)	

4. 決算整理前残高

決算整理前残高試算表

商	品	2,000 期末	商 品 販 売 益	6,000
---	---	-------------	-----------	-------

5. 決算整理仕訳

仕訳なし

6. 損益計算書・貸借対照表

損益計算書			貸借対照表	
I	売上高	24,000	商	品 2,000
II	売上原価			
	1. 期首商品棚卸高	1,000		
	2. 当期商品仕入高	19,000		
	合計	20,000		
	3. 期末商品棚卸高	2,000	18,000	
	売上総利益	6,000		

4. 総記法

(1) 期中取引の仕訳

・商品仕入時の仕訳

(商	品)	×××	(買掛金等)	×××
		原価		

・商品販売時の仕訳

(売掛金等)	×××	(商	品)	×××
				売価

(2) 期中取引の勘定記入

		商	品
前期繰越 (原価)		当期売上高 (売価)	
当期仕入高 (原価)			
	前T/B		

総記法の場合、商品勘定の決算整理前残高は貸方残高となる場合が多い。ただし、売上高が少額である場合など、借方残高となることもあり得る。

(3) 決算整理前残高

期中取引を転記した結果、決算整理前の商品勘定の残高は特別な意味を持たない金額となる。ただし、期中取引の勘定記入を分析することにより、取引の内容を把握できる。

(4) 決算整理仕訳

(商	品)	×××	(商品販売益)	×××
		売上総利益		

総記法の場合、決算整理後の残高が分記法の場合と同額になるように決算整理を行う。すなわち、商品勘定の貸方に計上されている売上総利益相当額を商品販売益勘定に振り替える。この結果、決算整理後の商品勘定の残高は期末商品棚卸高と一致する。

(5) 決算整理の勘定記入

商		品
前期繰越（原価）	当期売上高（売価）	}
当期仕入高（原価）		
売上総利益		
		}後T/B

(6) 決算整理後残高

決算整理後の各勘定の残高は次のような意味を持つ。

商品	期末商品棚卸高
商品販売益	当期売上総利益

なお、商品勘定の残高は次期に繰り越され、商品販売益勘定の残高は損益勘定に振り替えられる。

(7) 総記法特有の推定パターン

総記法を前提とした出題において、売上総利益が明示されていない場合であっても、決算整理前の商品勘定残高と期末商品棚卸高から売上総利益を求めることができる。

① 決算整理前の商品勘定が貸方残高の場合

商 品		
期首商品棚卸高	当期売上高	
当期商品仕入高		
売上総利益		
		} 前 T/B
		} 期末商品棚卸高 (= 後 T/B)

上図より、売上総利益は次のように求められる。

$$\text{売上総利益} = \text{前 T/B} + \text{期末商品棚卸高}$$

② 決算整理前の商品勘定が借方残高の場合

商 品		
期首商品棚卸高	当期売上高	
当期商品仕入高		
売上総利益		
		} 前 T/B
		} 期末商品棚卸高 (= 後 T/B)

上図より、売上総利益は次のように求められる。

$$\text{売上総利益} = \text{期末商品棚卸高} - \text{前 T/B}$$

例題 2 - 5 総記法

以下の資料により、総記法による期中取引仕訳及び決算整理仕訳を示しなさい。

1. 期中取引

- ① 商品19,000円を仕入れた。
- ② 原価18,000円の商品を24,000円で販売した。

2. その他の事項

期首商品棚卸高は1,000円、期末商品棚卸高は2,000円であった。なお、商品売買取引はすべて掛により行われている。

解 答 (単位：円)

1. BOX図

商品BOX

期首商品棚卸高	1,000	売上原価	18,000	(売上高24,000)
当期商品仕入高	19,000			
		期末商品棚卸高	2,000	

2. 期中取引仕訳

- ① (商 品) 19,000 (買 掛 金) 19,000
- ② (売 掛 金) 24,000 (商 品) 24,000

3. 期中取引の勘定記入

商 品

前期繰越	1,000	②売掛金	24,000
(期首商品棚卸高)			
①買掛金	19,000	(売上高)	
(当期商品仕入高)			
前T/B	4,000		

4. 決算整理前残高

決算整理前残高試算表

	商 品	4,000
--	-----	-------

5. 決算整理仕訳

(商 品) 6,000 (商品販売益) 6,000

※ $24,000 - 18,000 = 6,000$
 売上高 売上原価

6. 決算整理後残高

決算整理後残高試算表

商 品	2,000 期末	商品販売益 6,000
-----	-------------	-------------

7. 損益計算書・貸借対照表

損 益 計 算 書貸 借 対 照 表

I 売上高	24,000	商	品	2,000
II 売上原価				
1. 期首商品棚卸高	1,000			
2. 当期商品仕入高	19,000			
合 計	20,000			
3. 期末商品棚卸高	2,000	18,000		
売上総利益	6,000			

例題 2 - 6 総記法 (勘定分析)

以下の資料により、損益計算書を作成しなさい。

1. 決算整理前残高試算表

残高試算表		(単位：円)
	商 品	4,000

2. 期首商品棚卸高は1,000円, 当期商品仕入高は19,000円, 期末商品棚卸高は2,000円である。

3. 売上高は各自推定すること。

解 答 (単位：円)

1. BOX図

商品BOX

期首商品棚卸高	1,000	
当期商品仕入高	19,000	売上原価 18,000※
		期末商品棚卸高 2,000

※ $1,000 + 19,000 - 2,000 = 18,000$

2. 期中取引仕訳

決算整理前の商品勘定が貸方残高となっているため、記帳方法は総記法であると判断できる。

- ① 仕入時 (商 品) 19,000 (買 掛 金) 19,000
- ② 販売時 (売 掛 金) ? (商 品) ?

3. 勘定分析

期首から決算直前までの勘定記入を分析することで、売上高を求めることができる。

商 品			
期首残高	1,000	②売上高	24,000
①仕入高	19,000		
前 T/B	4,000		

総記法の場合、決算整理前の商品勘定の残高は、その金額自体に特別な意味はないが、上記のような分析により有用な情報を得ることが可能である。

一般に、ある一定時点での勘定の残高が与えられている場合、その時点までの勘定記入の経過をたどることで、不明となっていた金額が推定できる場合がある。このように、勘定記入の経過から逆算的に金額を推定するテクニックを勘定分析という。商品売買のみならず、様々な局面で活用できる汎用性の高いテクニックである。

4. 決算整理仕訳

(商 品) 6,000 (商 品 販 売 益) 6,000

※ $24,000 - 18,000 = 6,000$
売上高 売上原価

5. 損益計算書

損 益 計 算 書

I	売 上 高		24,000
II	売 上 原 価		
	1. 期首商品棚卸高	1,000	
	2. 当期商品仕入高	19,000	
	合 計	20,000	
	3. 期末商品棚卸高	2,000	18,000
	売上総利益		6,000

第2章 商品売買

6. 総記法特有の推定パターンを用いた解法

本問は勘定分析により売上高を推定できるが、総記法特有の推定パターンを用いて売上高を推定することも可能である。

商 品	
期首商品棚卸高	当期売上高
当期商品仕入高	
売上総利益	

} 前 T/B 4,000
 } 後 T/B 2,000 (期末商品棚卸高)

$$\text{売上総利益} : \underset{\text{前 T/B}}{4,000} + \underset{\text{期末}}{2,000} = 6,000$$

$$\text{売上高} : \underset{\text{売上原価}}{18,000} + \underset{\text{売上総利益}}{6,000} = 24,000$$

5. 小売棚卸法

(1) 期中取引の仕訳

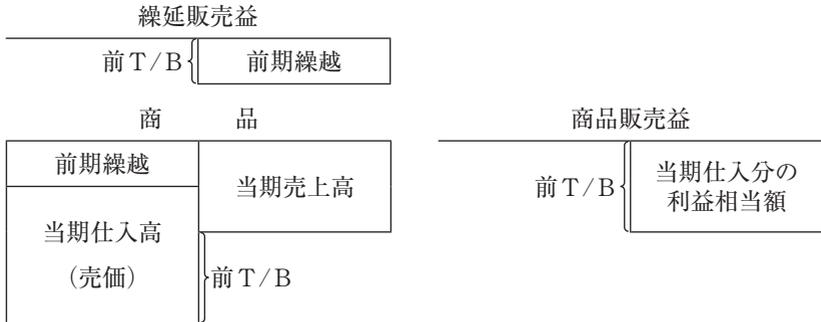
・商品仕入時の仕訳

(商 品)	×××	(買 掛 金 等)	×××
	売価		原価
		(商 品 販 売 益)	×××
			利益

・商品販売時の仕訳

(売 掛 金 等)	×××	(商 品)	×××
			売価

(2) 期中取引の勘定記入



※ 繰延販売益勘定の前期繰越高（期首残高）は、期首商品の利益相当額である。また、商品勘定の前期繰越高（期首残高）は、期首商品棚卸高（売価）である。

(3) 決算整理前残高

期中取引を転記した結果、決算整理前の各勘定の残高は次のような意味を持つ。

繰延販売益	期首商品の利益相当額
商品	期末商品棚卸高（売価）
商品販売益	当期仕入分の利益相当額

(4) 決算整理仕訳

(繰延販売益) ×××	(商品販売益) ×××
期首商品の利益	期首商品の利益
(商品販売益) ×××	(繰延販売益) ×××
期末商品の利益	期末商品の利益

(5) 決算整理の勘定記入

繰延販売益			
期首商品の利益相当額	前期繰越		
後 T/B	期末商品の利益相当額		
商 品		商品販売益	
前期繰越	当期売上高	期末商品の利益相当額	当期仕入分の利益相当額
当期仕入高 (売価)	後 T/B	後 T/B	期首商品の利益相当額

(6) 決算整理後残高

決算整理後の各勘定の残高は次のような意味を持つ。

繰延販売益	期末商品の利益相当額
商品	期末商品棚卸高 (売価)
商品販売益	当期販売分の利益相当額

なお、繰延販売益勘定および商品勘定の残高は次期に繰り越され、商品販売益勘定の残高は損益勘定に振り替えられる。

例題 2-7 小売棚卸法

以下の資料により、小売棚卸法による期中取引仕訳及び決算整理仕訳を示しなさい。

1. 期中取引

- ① 原価19,000円 (売価25,200円) の商品を仕入れた。
- ② 原価18,000円の商品を24,000円で販売した。

2. その他の事項

期首商品棚卸高は1,000円 (売価1,300円)、期末商品棚卸高は2,000円 (売価2,500円) であった。なお、商品売買取引はすべて掛により行われている。

解 答 (単位：円)

1. BOX図

商品BOX

(売価 1,300)	期首商品棚卸高	売上原価	(売価24,000)
	1,000		
(売価25,200)	当期商品仕入高	期末商品棚卸高	(売価 2,500)
	19,000	2,000	

2. 期中取引仕訳

- ① (商 品) 25,200 (買 掛 金) 19,000
 (商 品 販 売 益) 6,200
- ② (売 掛 金) 24,000 (商 品) 24,000

3. 期中取引の勘定記入

繰延販売益

前 T/B 300	前期繰越 300
-----------	----------

商 品

前期繰越 1,300 (期首商品の売価)	②売掛金 24,000 (売上高)
①諸口 25,200 (当期仕入の売価)	前 T/B 2,500 (期末商品の売価)

商品販売益

前 T/B 6,200	①商 品 6,200
-------------	------------

4. 決算整理前残高

決算整理前残高試算表

商 品	2,500	繰 延 販 売 益	300
		商 品 販 売 益	6,200

第2章 商品売買

5. 決算整理仕訳

(繰延販売益)	300	(商品販売益)	300※1
(商品販売益)	500	(繰延販売益)	500※2
※1	$1,300 - 1,000 = 300$		
※2	$2,500 - 2,000 = 500$		

6. 決算整理後残高

決算整理後残高試算表

商	品	2,500	繰延販売益	500
			商品販売益	6,000

7. 損益計算書・貸借対照表

<u>損益計算書</u>		<u>貸借対照表</u>	
I 売上高	24,000	商	品 2,000
II 売上原価			
1. 期首商品棚卸高	1,000		
2. 当期商品仕入高	19,000		
合計	<u>20,000</u>		
3. 期末商品棚卸高	2,000	18,000	
売上総利益	<u>6,000</u>		